

## 南足柄市立南足柄幼稚園

研究テーマ：主体的に遊びや生活に取り組み、楽しさや充実感、満足感を味わう幼児をめざして  
～子どものやりたい！が発揮される環境構成と援助の在り方～

### 1 実践の目的

予測困難な時代を生きていく子どもたちが、自分らしく未来の社会を切り拓いていくには、自分で課題を見つけ、探求する力や人とのコミュニケーションを図る力、つまり主体的に生きる力を欠くことはできない。

そこで幼児が心を動かして遊びだしたり、園生活におけるルールを守らされているのではなく必要感をもって行動したりすることを目指して実践を進めていくこととした。

### 2 実践の内容

#### (1) 環境構成の工夫

＜教材室＞      ＜可動式ワゴンの活用＞



- ・探求心を支える多様な素材
- ・場面や用途に応じて自分で選ぶ



・経験していることや育っている力を考察し、その力を生かした環境の再構成をする。

#### (2) 園内研修の工夫

振り返りシート（宮里暁美先生考案）を活用した研究協議を行う。振り返りシートとは、子どもの姿にふさわしい環境を構成するために、日頃の子どもの過ごし方、保育者とのかかわりを客観的にとらえるためのツールであり、視点は次図のとおり。

振り返りシートの「5つの視点」

- |   |                     |
|---|---------------------|
| 1 | 気持ちよい生活をしているかな      |
| 2 | 注意深く観て、能動的に聴いているかな  |
| 3 | 一緒に面白がることのできるかな     |
| 4 | 新しいモノ・コトが作り出されているかな |
| 5 | 社会が生まれているかな         |

#### (3) 事例研究 年長児5月の姿 ＜体験からうまれる主体性＞

そら豆って、どうやってなるの？

＜視点2＞

地域の方のご厚意で、そら豆の収穫をさせていただく。そら豆の名前の由来を聞き、教師も一緒にわくわくして食べ頃のそら豆を探す。

幼児が夢中になって収穫しているつぶやきに、教師は耳を澄ませていく



絵本「そらまめくんのベッド」は読まれる機会も多く、知っているように思われるそら豆だが、実際に見たり食べたりした経験のある幼児は少ない。しかし、園で調理をして提供することは衛生管理やアレルギー対応の観点から難しいため、各家庭に持ち帰ることにした。

そら豆の中身っておもしろい！

＜視点2・3＞

収穫の翌日「さやの中身がふわふわしていた」「皮が思ったより固かった」「パパのおつまみになった」等、家庭での経験を言葉で表現する姿があった。

次は、そら豆を描いてみよう！

<視点2・4>

実際のそら豆を見ながら絵の具を使って描く。改めて、形の特徴や中身のふわふわした感触に気付く幼児の姿があった。

それぞれが感じて表現していることを、教師は受け止めていく



もっとやってみよう! <視点3・4>

A児が「先生、すごいことを発見したよ。そら豆ね、2つに割れるんだよ」と言った。A児は自分から積極的に思いを伝えることが少ない幼児である。そら豆を収穫した体験が、自分から言葉にするほど魅力的であったことがうかがえる。担任は、自ら発信したことを遊びにする楽しさにつなげたいと思い、そら豆を作ってみることを提案した。「2つに割れる」というところに目を輝かせるA児の姿から、それを再現できるような材料を、教材室から瞬時に選び、A児に提案した。

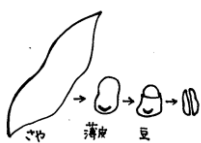
<材料>

さや…不織布(針と糸)

ワタ…綿

薄皮の素材…ポリ袋

薄皮を向いた豆の部分…花紙



薄皮を押すとすると豆が飛び出し本物ようになった。A児の「2つに割れる」も再現することができ、「本物みたい」と言って繰り返し豆を出したり入れたりすることを楽しんでいった。

できた! もっとやってみよう!

<視点5>

A児がそら豆を作っている姿を見て、友だちが「何をしているの?」と興味をもって集まってきた。A児が、自分のしていることを友だちに伝え、「おもしろそう」

「やってみよう!」と心を動かすきっかけとなった。

友だちの存在を意識する状況をつくり、思いや考えをつないでいく

### 3 実践の成果と課題

#### (1) 環境構成の工夫

子どもが「やりたい」という思いをもったとき、気持ちが他へ移る前に教材や材料を提示できるように場を整えたことで、幼児の遊びに向かう力が途切れず、興味を持続させたまま、やりたいことを実現していくことができた。室内環境の充実は図れたので、園庭環境の工夫が次の課題である。

#### (2) 園内研修の工夫

振り返りシートを活用したことで、協議の視点が定まり、よりテーマの本質にせまることができた。

#### (3) 事例研究

ひとつの遊びに伴う前後の出来事を想起していくことで、それらのつながりを分析することができた。幼稚園の遊びは、小学校における「教科横断的な学習」により近い、5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)の要素が含まれた遊び=学びであるということ再認識できた。

### 4 今後の展開

幼児が「やってみよう」と主体的に動き出すには、魅力を感じ課題やめあてをもつことができる環境があること、それを一緒におもしろがり、支える教師の存在があることが必要である。幼児期に培った遊びをとおして得た学びの力を、小学校教育における資質・能力につないでいくことができるように、より研究テーマを深めていくとともに、情報発信に努め、公立幼稚園としての責務を果たしていきたい。